

月刊

地域保健

12
2013

●特集

生活保護担当部署における保健師の役割

●フロントランナー

廣末ゆかさん 〈高知県中芸広域連合 保健福祉部 課長〉

●ピープル

天野優子さん 〈風の谷幼稚園園長〉



FRONT
RUNNER
フロントランナー

高知県
中芸広域連合

廣末ゆか
さん

● 中芸広域連合保健福祉課 課長

過疎町村の未来を担う子どもと若者を育てたい

看護師・大学教員を経て郷里に戻った保健師15年目の胸の内

ちゅうぎ
中芸広域連合は1998（平成10）

年7月、高知県安芸郡4町3村のうち安田町、田野町、奈半利町、北川村、馬路村が参加し誕生した。これら5町村は人口減少と高齢化、財政悪化の三重苦に見舞われる中、行政の経費節減とサービス充実を志向。消防・救急・尿処理、少年育成、介護保険、ごみ処理、火葬、観光振興などの事務・管理・運営の一体的執行を開始した。2009（平成21）年度から保健福祉を加え、母子保健や健康づくり、障害者支援など67業務を行っている。

その保健福祉業務を主導しているのが今月のフロントランナー、廣末ゆかさん。田野町で生まれたが、高知市の私立中学校に入って寮生活を始めたのを皮切りに20年以上、町から離れた活動の場は高知から東京、兵庫へと移り、英国で学ぶ機会も得た。郷里に戻るまでの曲折、さまざまな体験、現実を通して見えてきた胸の内は――。

学卒後は病院看護師として
6年間臨床経験を重ねる

田野町は土佐湾に面し、背後に四国山地を従える田園の町である。面積は6・56平方キロメートルと四国一小さいが、中芸5町村の中心部にある。江戸期は藩の御用商人らが山林資源開発で富を成してにぎわい、幕末には安芸郡奉行所・藩校田野学館が併設されて政治・経済・文化の拠点となった。現在は施設園芸を柱とする農業、大敷網・沿岸漁業が盛んなほか、魚梁瀬杉製品の販売市は全国的に知られる。

この地で廣末さんは小学校卒業まで過ごした。高知市にある私立の中高一貫校に進学し寮生活に入った。そのころ町役場助役だった父親が町長に就任した。実家から離れて暮らしていたため、ことさら「町長の娘」という立場を意識することはなかった。

高校卒業後、高知県立女子大学家政

中芸広域連合の概要

設立	1998（平成10）年7月1日			
構成	町村名	面積 (km ²)	人口 (人)	高齢化率 (%)
	安田町	52.30	2,812	40.9
	田野町	6.56	2,788	38.0
	奈半利町	28.32	3,387	40.6
	北川村	196.91	1,292	41.8
	馬路村	165.52	935	37.1
	合計	449.61	11,214	平均 39.9

人口は2013年11月1日時点の推計。高齢化率は推計人口に基づいて算出

生活保護受給者にはさまざまな健康課題が集約されているケースが多く、10年ぶりに改訂された「地域における保健師の保健活動に関する指針」にも、生活困窮者に対して社会経済状況の違いによる健康状態の差が生じないよう健康管理支援を行うことが明記された。特集では、生活保護担当部署で働く保健師にスポットを当て、保健師が心がけたいことを中心にまとめる。

**P12 自立支援プログラムにより被保護者の健康意識を高める
埼玉県上尾市の取り組み**

◎上尾市 健康福祉部 社会福祉課／渡邊智美（保健師）

**P18 生活支援課に配属2年目の保健師が現場で体感したこと
Field Voice ① 和歌山市**

◎取材＝高田英弦

P22 健康づくり事業推進役から生活保護の査察指導員へ…

Field Voice ② 福岡県行橋市

◎取材＝高田英弦

生活保護担当部署 における 保健師の役割





病気だけでなく、大きな視点で見守り サポートしていきたい

「男性版おばちゃん保健師」を目指して

いけの ゆうき
池野佑樹さん

● 静岡県西部保健所
地域医療課 疾病対策班



文=太田美由紀 (ライター) 写真=C. Kent



先端医療を学ぶため入学した大阪大

産婦人科での実習で 性差に対する抵抗を払拭

「姉と妹には生まれて育ちましたが、浜名湖が近かったのでよく釣りに出かけに行きました。僕が行くと、父は顕微鏡をのぞかせてくれるんです。それが楽しみに、病院は身近な場所でした。祖父や自分自身の入院経験もあり、より対人サービスがある医療職を目指して、大学進学時には保健学科の看護学専攻に進みました」

「やるからには頑張ろうと熱くなるタイプだと思います。かなり厳しい部活で、朝から晩までポートをこいでいたような気がしますね。ポートに乗れない日は筋トレ、ポートに乗っても筋トレという日々。おかげでいつのまにかぜんそくもよくなりました。スポーツ医学部保健学科を卒業し、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻へと進学。保健師になりたいと思っただけは、大学4年生の実習でした。」

「大阪市大正区の実習で、自転車で町を走り回り、生活の場に入っていく訪問は新鮮でした。病気だけでなく、その人の生活全体、地域全体を見る保健師の仕事はとても魅力的だと感じたのです。その地区は沖繩から移住してきた人が多く、文化的な背景で飲酒量が多いことなど、生活や文化は健康に深くかわることを学びました。同時に、さまざまな人の生活にかかわるからこそ、保健師には男性の視点も必要なのではないかと考えるようになりました」

「ただ、大学の産婦人科での実習では少し落ち込みました。患者さんも女性ばかりで身の置き所がなく、男の人がつくのは嫌だと患者さんに拒否されることもありました。現場の医師や看護師からも励まされましたが、最後に受け入れてくださったお母さんが看護師で、『どんどん見て勉強しなさい』と、分婉にも立ち合わせてくださいました。そのとき、専門職としての意識があるなら、むしろどんな状況にも飛び込んでいこうという気持ちに切り替

幼いころから 医療職に憧れていた

「姉と妹には生まれて育ちましたが、浜名湖が近かったのでよく釣りに出か

池野さんは浜松市の浜名湖の東側で生まれ育ちました。

鍛え上げた体、頭脳も明晰。きちんとした中にもソフトな語り口が印象的な池野佑樹さん。入職一年半にして、「優しいので、おじいちゃんおばあちゃんたちから人気がありますよ」と水野美智子部長もその人柄を評価しています。池野さんが所属するのは静岡県西部保健所地域医療課の疾病対策班。結核患者の管理や訪問指導、各種感染症調査、HIV抗体検査の問診など感染症にかかわる分野を専門的に担当しています。静岡県西部保健所の管内は、政令指定都市の浜松市を除く、磐田市、掛川市、菊川市、御前崎市、袋井市、湖西市、森町の7市町。

体が丈夫ではなかったとのことですが、鍛え上げられた体格は部活動の影響が大きいようです。中学校では剣道部、高校ではポート部に所属し、ポート部では静岡県大会で2位を受賞したこともあります。

「両親とともに臨床検査技師で、母は結婚後専業主婦となりましたが、父が当直の日にはよく病院に差し入れを届がが好きで、今でも体力を維持するために週に1回はテニスをしています」



▲大学4回生（2009年7月）、母性看護学実習で先生と記念撮影。実習グループの10人は今でも仲がよく、それぞれの結婚式にも全員で出席している